

山口市男女共同参画センター だより

令和元年10月号

発行:山口市男女共同参画センター
編集:山口市男女共同参画ネットワーク広報委員会
〒753-0074 山口市中央二丁目5番1号(山口市民会館事務所2階)
TEL/FAX 083-934-2841 <http://www.y-djc.com/> [✉mw3kaku@c-able.ne.jp](mailto:mw3kaku@c-able.ne.jp)

新センター長あいさつ

山口市男女共同参画センター 所長 原田 憲明



2009年にオープンいたしました“男女共同参画センターゆめぼら”は、今年で開設10年を迎えました。これまで歴代のセンター長が、“ゆめぼら”を運営して参りましたが、本年4月に、私こと原田憲明が着任いたしました。どうぞ宜しくお

願いたします。

私は、男女共同参画という関係部署に配属になりましたのはこれが初めてで、恥ずかしなからまずは足元から実践と言うことで、自分の家の“燃やせるゴミ”や“プラ容器包装”のゴミ出しから始めました。実際にやってみますと、ゴミの扱いや分別など細々したこと目が行くようになり、またゴミ出しのときの地域の方との会話も楽しく、私にとって小さな共同作業も新鮮な感動として受け入れることができいております。ただ、気になるのがゴミ出しのときに挨拶する皆さんの高齢化です。団塊の世代の多くの方が後期高齢者になる2025年には私も60代の後半になっています。少子化も進み、多様な形

での社会参加は避けて通れないと思います。こうした背景の中で女性の社会進出も一層求められ、今後、柔軟な働き方に対する理解や支援も考えていく必要があるでしょう。

男女共同参画センターでは、どなたでも参加できる“男の気楽なおしゃべりサロン”や“おしゃべり読書会”、また各界の著名な方を講師にお招きする各種の講座なども土曜日の午後に開催しています。ホームページやチラシなどで案内しておりますので、興味のある方はぜひ私と一緒におしゃべりや講座に参加してみませんか？

また11月23日(土)には、市民会館や男女共同参画センターを会場に、恒例の「参画センターフェスティバル」も開催いたします。

男女共同参画は奥の深い内容のものと思いがちですが、いろんなセンター事業に参加させていただきながら知識を深めて行こうと思っています。こんな私がセンター長を勤める“男女共同参画センターゆめぼら”ではございますが、今後ともを暖かく見守っていただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

新室長あいさつ

山口市人権推進課 男女共同参画推進室 室長 時乗 鈴代



4月に市男女共同参画センター主幹として着任してまいりました。勤務場所は、市役所3階の人権推進課内、男女共同参画推進室です。よろしくお願いたします。

本市は、平成20年3月に「山口市男女共同参画基本計画」を策定し、平成21年4月に男女共同参画の推進拠点となる「山口市男女共同参画センター」を設置しました。平成24年9月には、市民の多くの夢が生まれる素晴らしい空間になるようにとの願いをこめて、公募によりセンターの愛称を「ゆめぼら」とし、平成26年3月に制定いたしました「山口市男女共同参画推進条例」におきまして、この「ゆめぼら」を本市における男女共同参画の取組を推進するための拠点施設として改めて位置づけております。

現在、女性活躍推進法及びDV防止法を踏まえ、平成30年度からの5年間に取組む施策の方向と内

容を定めた「第2次山口市男女共同参画基本計画」に基づいて、「認めあい 支えあい ともに夢拓くまち やまぐち」の実現を目指し、「ゆめぼら」では、男女共同参画に関する講座や研修会の開催や図書・DVDの貸出し、DVなど様々な相談の対応など市民や団体の皆様が幅広く活動を行うことができる施設として取組を推進しております。

今後は、「ゆめぼら」のより一層の周知を図ってまいりますとともに、「ゆめぼら」で集中的に開催してまいりました講座等の事業につきまして、地域に出向きまして開催するなど、市内全域の方々に幅広く参加していただけるよう、裾野を広げる取組も推進してまいりたいと考えております。

さて、この度、環境大臣に任命された小泉進次郎氏が育児休業取得について「この固い社会が変わるよう…」と検討する発言が話題になっています。この話題が、令和の時代に男女共同参画が大きく前進する追い風となることを期待しております。

多様な選択を可能にする学びの充実 —令和元年版男女共同参画白書から—

6月14日に、『令和元年版男女共同参画白書』が閣議決定、公表されました。今回の白書の特集は「多様な選択を可能にする学びの充実」です。その一部をご紹介します。詳細は内閣府男女共同参画局ホームページをご覧ください。

1. 女性の教育・学びの進展

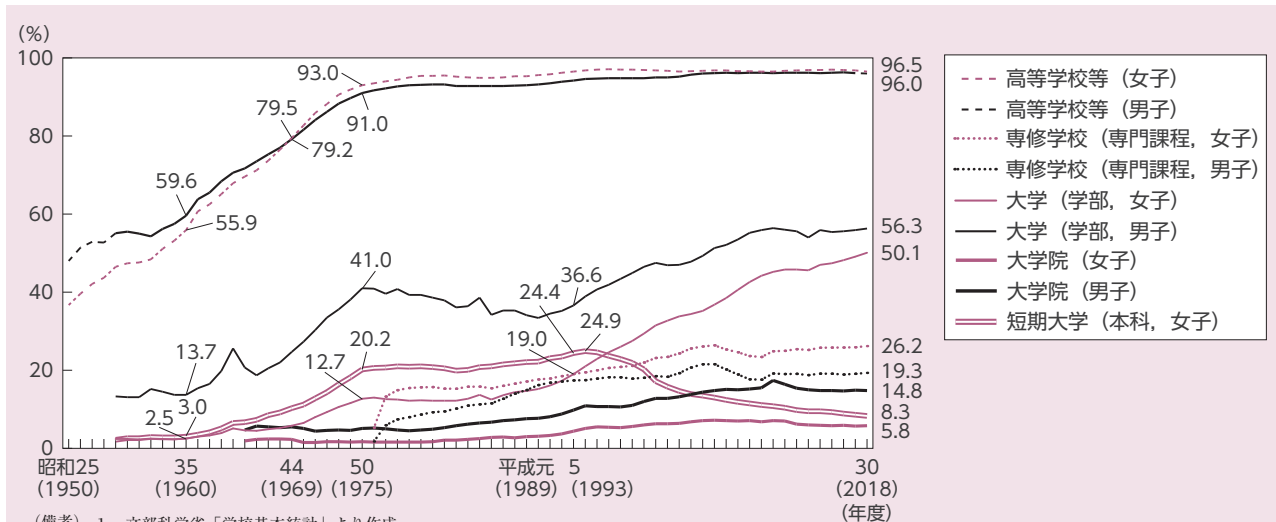
■女子の高等教育は短期大学から大学へ

昭和35(1960)年度の時点では、女子の高等教育機関への進学率は、大学、短期大学ともに5%未満でしたが、高度経済成長期には短期大学を中心に進学率が大きく上昇し、昭和50(1975)年度の時点では、大学進学率は1割、短期大学進学率は2割を超えます。その後、バブル経済崩壊期までは高等教育機関への進学率がやや停滞しますが、バブル経済崩壊以降は再び上昇しています。バブル経済崩壊以降の女子の高等教育機関への進学率では、高度経済成長期と異なり、大学への進学率が大きく上昇し、平成30(2018)年度現在で5割を超えています。依然として男子の大学進学率を下回っています(図1)。

■大学における専攻分野に男女の偏り

薬学・看護学等や人文科学、教育等を専攻する学生は、昭和50(1975)年度時点で女子が過半数を占めており、その後も同様の傾向が続いています。一方、理学、医学・歯学、農学や社会科学においては、昭和50(1975)年度時点では女子の割合が1割前後でしたが、平成5(1993)年時点では農学、医学・歯学や理学において2割を超え、平成30(2018)年度時点では農学や社会科学、医学・歯学は3割を上回っています。しかし、工学においては、女子の割合は昭和50(1975)年度の0.9%からは上昇しているものの、平成30(2018)年度時点においても15.0%にとどまっており、また理学においても3割に達していません。

図1 学校種類別進学率の推移



(備考) 1. 文部科学省「学校基本統計」より作成。
 2. 高等学校等への進学率は、「高等学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部の本科・別科並びに高等専門学校に進学した者(就職進学した者を含み、過年度中卒者等は含まない。)/「中学校・義務教育学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者」×100により算出。ただし、進学者には、高等学校の通信制課程(本科)への進学者を含まない。
 3. 専修学校(専門課程)進学率は、「専修学校(専門課程)入学者数(過年度高卒者等を含む。)/「3年前の中学卒業生及び中等教育学校前期課程修了者」×100により算出。
 4. 大学(学部)及び短期大学(本科)進学率は、「大学学部(短期大学本科)入学者数(過年度高卒者等を含む。)/「3年前の中学卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数」×100により算出。ただし、入学者には、大学又は短期大学の通信制への入学者を含まない。
 5. 大学院進学率は、「大学学部卒業後直ちに大学院に進学した者の数」/「大学学部卒業生数」×100により算出(医学部、歯学部は博士課程への進学者)。ただし、進学者には、大学院の通信制への進学者を含まない。

2. 進路選択に至る女性の多様な状況と多様な進路選択を可能とするための取組

■女子の理系回避の原因は成績ではなく、環境

OECD(経済協力開発機構)が平成27(2015)年に実施したPISA調査(生徒の学習到達度調査)によると、我が国の女子の科学的リテラシー及び数学的リ

テラシーの点数は、男子に比べると低くなっていますが、諸外国の女子及び男子よりも高くなっています。しかしながら、大学等における理工系分野の女子割合は低くなっています。これは、女子の理数

系科目の学力不足ではなく、周囲の女子の進学動向、親の意向、ロールモデルの不在等の環境が影響していると考えられるため、生徒に学んだ知識と実社会のつながりを理解させるような環境を醸成することや、生徒だけでなくその家族や保護者に対しての支援も行うこと等が必要であると指摘されています。

■進路選択における教員の影響

教科別に女性教員の割合を見ると、中学校では国語や英語で女性教員が多くなっていますが、数学や理科、社会では男性教員が多くなっています。この傾向は、高等学校においても同様です。いわゆる文系科目に女性教員が多く、いわゆる理系科目及び社会科に男性教員が多いといえます。これは、好きな科目の男女の傾向と一致しています。「女子生徒等の理工系進路選択支援に向けた生徒等の意識に関する調査研究」によると、自身を「理系タイプである」もしくは「どちらかといえば理系タイプである」と位置付けている割合を、中学校で理数科目(数学、理科)を1科目でも女性教員から教わっている女子と、2科目ともに男性教員から教わっている女子とで比較すると、それぞれ33.8%、22.5%と、前者

が11.3%ポイント高くなっています。理数科目の女性教員の存在は、身近なロールモデルとして女子の目に映っているとも考えられます。

■進路選択における家族等の影響

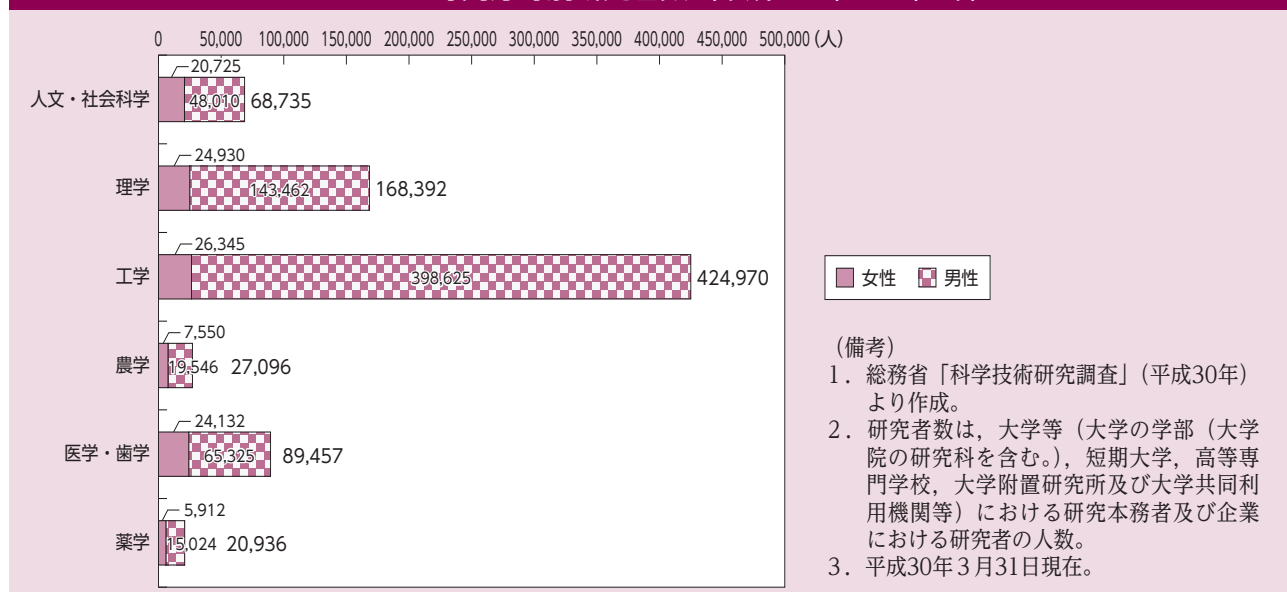
「多様な選択を可能にする学びに関する調査」(平成30年度内閣府委託調査)によると、働く上でのイメージや進路選択において影響を受けた人や物事は、小学生の頃、中学生の頃、大学・短期大学・専門学校への進学時、就職時を通して女性は母親、男性は父親と、同性の親の影響を受けています。満足できる進路選択ができなかった理由について見ると、「家族が進学先(学校・学科)について反対したから」や「経済力が十分でなかったから」はいずれも女性の方が高くなっていますが、若い世代ほどこれらを理由に挙げる割合が少なくなっています。

■多様な進路選択のために

多様な進路選択のためには、学生・生徒が固定的性別役割分担意識等にとらわれず、主体的に進路選択するためのキャリア教育の充実や、女性研究者が働きやすくすることが大切になります。

「内閣府発行『共同参画』より抜粋」

図2 専門分野別研究者数 (平成30 (2018) 年)



おんなの目 おとこの目

主に貧困家庭の子どものために定期的に食事を提供するいわゆる「子ども食堂」が山口市内にも増えてきた。8月の24時間テレビでもその模様が放映され、今大変注目されている活動となっている。

最近では、貧困家庭の子どものためだけでなく、それ以外のあらゆる階層の人たちのコミュニティの場として、その存在が拡大している。

先日、その子ども食堂をお世話されているボランティアの方にお話を聞いたのだが、高齢者の方がもっと参加してくれば地域のコミュニティができてくるのにと思っているのだが、な

かなかそうはなっていないということだった。

最近では、SNSなどのコミュニティツールが発達し、地域の人同士のコミュニケーションがとりづらくなっているような気がする。こういった「子ども食堂」の存在をきっかけにして良い地域のコミュニティが出来てくれればよいと思う。

山口市男女共同参画センター フェスティバル

主催 / 山口市

要申込
入場無料

※裏面をご覧ください。

2019年 11月23日 土祝 10:00~15:00

会場 山口市市民会館 小ホール・展示ホール / 山口市男女共同参画センター



スポーツクラブ内村・コーチ

内村 周子氏

夢を追い続けて…
諦めない！ポジティブに！
いつも元気なその秘訣

講演会

13:00
~
15:00
(12:00開場)

山口市市民会館
小ホール

定員
400
名様

※手話通訳あり
託児先着20名
(要予約)

【プロフィール】

長崎純心女子学園卒業し、現在の長崎県立大学を卒業。その後、体操教室で幼児体育の指導にあたる。1992年に夫・和久氏と共に「スポーツクラブ内村」を開設。2歳から大人までの体操を指導。[Shuバレエスタジオ]でクラシックバレエも指導している。1989年、長男航平、1991年には長女春日(はるひ)を出産。二児の母でもある。現在、スポーツクラブ内村・Shuバレエスタジオで幼少から大人まで幅広く指導に携わる傍ら、自らもシニア大会で体操選手として活躍中。また、息子を、世界を代表する選手まで育てあげた指導者・母親としての、子どもの才能の伸ばし方の極意や、自らの信じる道を歩み続ける軽やかで強靱な生き方と前向きな精神を伝えるなど、熱い言葉とポジティブ思考の講演が好評。

【内村 航平氏 戦歴】

- オリンピック3大会(2008年北京・2012年ロンドン・2016年リオデジャネイロ) / 個人総合2連覇を含む、7つのメダル(金メダル3・銀メダル4)を取得
- 世界世界体操競技選手権 / 個人総合で6連覇、19個のメダル(金メダル10・銀メダル5・銅メダル4)を取得
- 国内大会 / NHK杯個人総合では10連覇、全日本選手権個人総合では10連覇

山口市市民会館 展示ホール

◇子育てワークショップ 10:00~11:30

「キッズ・リズムダンス」 定員20組 託児先着10名(要予約)

講師:スタジオF代表 江藤 やす世氏

対象:4~12才の子どもとその家族

山口市男女共同参画センター

◇映画上映会 10:00~11:45

「しあわせの雨傘」 定員50名 託児先着10名(要予約)

◇団体活動紹介パネル展示 10:00~15:00

- パンの販売 10:00~
- ぜんざいコーナー 11:00~ (無料)

雑炊の販売 11:00~
(100食限定/1食100円)

お申込
お問合せ

山口市男女共同参画センター
Email mw3kaku@c-able.ne.jp HP http://www.y-djc.com

TEL.FAX. 083-934-2841